



相談室便り



第35号 (2013.6)

■スタッフ紹介 ■ 長谷川 明弘 先生 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

～ 4月より、長谷川明弘准教授（臨床心理士）をお迎えしました ～

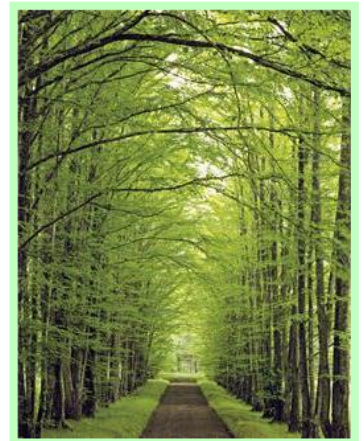
はじめまして、この4月からスタッフになった長谷川明弘です。

「こころの相談室」がある麻布・六本木の周りは坂が多いです。江戸時代を舞台にした時代小説「鬼平犯科帳」では「盛り場も少なく、大名や武家屋敷や寺院が多くて、(おもしろくもなんともない……)麻布一帯を見廻る味気なさは、忠吾のような男にとって堪えがたい(「麻布一本松」鬼平犯科帳〈21〉)」と描かれています。古地図を紐解くと、小説に描かれたように「こころの相談室」の辺りには鳥居坂に沿って大名屋敷が連なっていました。

今の街並みを歩いてみました。ある坂をぐるりと登ると高層ビルや国際的な繁華街がある一方で、ある坂を下ったら、古き良き商店街があったりと景観の変化が楽しめます。

ところで同じものをみても人によって感じ方や受け止め方が変わります。時間の感じ方も人によって変化します。楽しいときはあっという間に過ぎますし、心が動かないときはとても長い時間に感じる様です。心理療法をしている中で、この違いを聴くのがとても不思議で楽しみにしています。さらに同じ事柄について時間をずらして尋ねるとさらに変化することがあります。人生という時間経過を歩む中で、ふと立ち止まって何かを感じ見つめてみる機会を持つのはどうでしょうか？ この場所は訪れる人にとって新しい体験ができる環境が揃っています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



■スタッフ紹介 ■ 村林 真夢 先生 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

～ 4月より、村林真夢講師（臨床心理士）をお迎えしました ～

はじめまして。4月から相談室スタッフになりました村林真夢と申します。

10代までを大阪で過ごし、20代は京都で、その後広島を経て、二年前、震災直後

の4月に東京へやって来ました。新幹線通勤のようなことをしていた時期があり、その頃から「移動」や「距離」に対する感覚が軽くなったように思います。金銭的な制約はもちろんありますが、時間的には「その気になればどこでも行ける」という軽さが身について、それ以来旅行がちょっとした趣味になりました。

いろいろなところへ行くうち、最近、「どこでもドア」があれば、たいていの日常生活上の問題は解決するのではないか?と思うようになりました。「どこでもドア」は、場所だけでなく、時間的制約を超える「いつでもドア」でもあります。仕事と私生活のバランスにしても、人と人の関係にしても、どこでもorすぐには行けない・離れられないからこそ、いろいろな問題に悩むのかなあと思ったりしています。



縁あってお世話になることとなったこの場所で、がんばってまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

■ スタッフ紹介 ■ 竹田 円香 さん ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

～ 4月より、事務スタッフの竹田円香さんをお迎えしました ～

はじめまして。四月より相談室事務スタッフとして着任致しました竹田と申します。六本木というと、人と車の往来が激しい大都会というイメージでした。しかし東洋英和女学院のある鳥居坂付近はとても静謐な空気に包まれていて、都会の中にもこのように穏やかで素敵な場所があるのだなあと、初めて訪れた際にはとても感銘を受けました。

その素晴らしい環境の下、相談室に携わる方々のサポートができるよう、日々精進して参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



本年度もどうぞよろしく願いいたします。

発行	東洋英和こころの相談室	Tel. 03-3583-7463
開室時間	月～金曜日 午後2時～午後8時（※木曜日 午後1時～午後8時） 土曜日 午前9時～午後6時 日曜日・祝日 休室	
URL	http://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/shisetsu/kokoro.html	